

# 後藤 蝶五郎（ごとう・ちょうごろう）

## 1、プロフィール

小林不浪人に次ぐ青森県川柳界の功労者。青森県川柳社を創立し、機関誌「ねぶた」を発行して川柳普及活動の役割を果たす。没後、後藤蝶五郎賞が制定される。

<生没>

1899(明治 32)年4月 16 日 ~ 1959(昭和 34)年1月 18 日

<代表作>

川柳句集『壺』『いづみ』『雪の声』

<青森との関わり>

黒石市浅瀬石に生まれ、没す。

## 2、作家解説

柳人。明治 32 年南津軽郡浅瀬石村(現黒石市)に生まれる。本名、長五郎。大正 2 年から俳句を初め天内浪史から指導を受ける。5 年黒石町の都々逸・川柳の会「浮雲会」に参加。この頃、東奥柳壇に投句。

大正 13 年、小林不浪人主宰の川柳みちのく吟社同人、昭和 2 年吟社事務所と会計を担当して維持発展に尽くした。また、新人育成指導に励んだ。昭和 11 年、本県初の個人川柳句集『壺』、22 年句集『いづみ』を発行。同年暮れ、みちのく吟社を退く。

昭和 23 年、1 月周囲の柳人たちの強い要請を受け、青森県川柳社の創立に踏み切り代表となる。2 月には機関誌「ねぶた」を創刊。以後、川柳王国青森県の象徴たる「みちのく」の終刊に替わって、本県の代表誌に成長した。青森県川柳社は、文字通り県内各川柳社の主要勢力が集合加入し、質的向上を図り普及活動を担った。

昭和 27 年、病に倒れるが創作活動を休まず、31 年 8 月第 2 回小林不浪人賞を受賞。32 年句集『雪の声』を刊行。34 年、脳溢血のため 59 歳で亡くなった。浅瀬石共同墓地に眠る。同墓地には、辞世「目を閉じて灰色もよき色のうち」の碑が建つ。また、みちのく吟社以来、青森県川柳社設立を経て、川柳を越えて苦勞を共にした盟友山田よし丸との二人で一基の友情の句碑が、中野神社(黒石市)に建っている。「退いてみる世の中の面白さ」。34 年に 2 回目の小林不浪人賞を受賞。

27 年結成された青森県川柳人連盟は、蝶五郎の功績を讃え、死去後、後藤蝶五郎賞を制定した。第 1 回は青森県川柳社創立に当たって、事務的な面で尽力した金枝万作に贈られた。

### 3、資料紹介

○『いづみ』

図書

1947(昭和 22)年 9 月 10 日

152mm × 102mm

第 2 句集。いづみ出版後援会発行。川上三太郎、西嶋○丸、小林不浪人の序文の後、11 年から 10 年間の自選 500 句を 4 部に分けて編んだもの。著者の跋文「川柳人の立場から文化国家の建設と真の民主化促進の一助」の抱負が、時代の意気を感じさせる。